

CPD記録簿 第1年度（2017年12月1日～2018年11月30日）

登録番号・氏名 【 地質太郎 】

※印の項目は、必須入力欄です

この色がついているセルのみ入力してください

各シートの表は入力以外の編集を行わないでください！

表の空白部の削除などを行うと、正しく計算されません

「⑩CPD取得形態」により選択した項目によって、注意事項が自動表示されます。

「登録番号」「登録部門数」「対象となる部門」の3項目は、1年度目のみ記載してください。2年度目以降は自動入力されます。

2部門
27.32 単位/年 自動集計のため入力不可

登録番号・氏名、登録部門数、対象となる部門を必ず入力してください。

「⑩CPD取得形態」は、プルダウンのメニュー①～⑤のいずれかを、CPD記録簿にある「参考（CPD単位一覧表）」を確認の上、選択してください。

①番号	②主催者名※	③プログラム名※	④プログラム番号	⑤教育分野 (プログラム分類)	⑥教育形態 (プログラム形態)	⑦開始年月日※	⑧終了年月日※	⑨参加単位※	⑩単位数※	⑪CPD単位数※	⑫主催者証明※	⑬認定機関名※	⑭プログラム目標	⑮プログラム内容※	⑯CPD取得形態※ (タブから選択)	※間違えやすい区分	期間内チェック
1	東関東地質調査業協会	巡見 「関東ローム層と武蔵野台地」		X一般共通課題2環境地球環境、環境アセスメント、地域環境、自然破壊等の環境課題の解決方法等	I講習会等の受講1GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、大学、関係学協会(学術団体、公益法人を含む)、民間団体、企業が公式に開催するもの	2017/12/11	2017/12/12	9時間	9	9	○	東関東地質調査業協会	現地見学会 「巡見 関東ローム層と武蔵野台地」1日半の巡見コースに参加。ローカルソイルの分布や特性などについて、露頭を観察しながら講義を受けた。	①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	表彰の場合は、表彰状の添付が必須		
2	社団法人 日本土壌汚染技術学会	講習会 「土壌汚染に関する技術向上講習会」	1111	Y技術課題1専門分野の最新技術専門とする技術、その周辺技術等の最新の技術動向	I講習会等の受講1GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、大学、関係学協会(学術団体、公益法人を含む)、民間団体、企業が公式に開催するもの	2018/2/19	2018/2/19	3時間	3	3	○	社団法人 日本土壌汚染技術学会	【土壌汚染】土壌汚染に関する技術向上講習会 土壌汚染調査の現地サンプリング技術に関する講義を受講した。	①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	表彰の場合は、表彰状の添付が必須		
3	一般社団法人全国地質調査業協会連合会	口頭発表 「技術フォーラム2018」		X一般共通課題1倫理倫理規程、職業倫理、技術倫理、技術者倫理(技術の人類社会に与える長期的・短期的影響の評価を含む技術士に課せられた公益性確保の責務等)	II論文等の発表・査読1(1)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、学協会、民間団体等が開催する技術発表会等での口頭発表	2017/3/1	2017/3/1	0.33時間	1.7	1.7	○	一般社団法人全国地質調査業協会連合会	口頭発表 技術フォーラムにて、「ボーリング掘削技術における泥水管理の方法」の口頭発表を行った。 共著者1名、予稿集論文4ページ	①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	表彰の場合は、表彰状の添付が必須	×	
4	甲信越地質調査業協会	講習会 「地滑り調査の基礎と応用」		X一般共通課題1倫理倫理規程、職業倫理、技術倫理、技術者倫理(技術の人類社会に与える長期的・短期的影響の評価を含む技術士に課せられた公益性確保の責務等)	IV講習会等の講師・指導1(1)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、大学、学協会、企業等の開催する研修会、シンポジウムの講師等(大学、学術団体等の研修等の講師)	2018/6/1	2018/6/1	3時間	9	9	-	甲信越地質調査業協会	講習会講師 講習会「地滑り調査の基礎と応用」 若手技術者向けの技術講習会で講師を務めた。				
5	国土交通省 ○○整備局	局長表彰 受賞		X一般共通課題9その他教養(科学技術史など)、一般社会との関わり等、及び上記1～5、8～10に含まれないもの	V業務の技術的な評価1業務上で技術的成果をあげ、グループ及び個人(本人)が表彰を受けた業務(公的な組織からのもの)	2018/11/1	2018/11/1	1件	20	20	-	国土交通省 ○○整備局	局長表彰 担当技術者として従事した業務「H18国道122号神田川防災地質調査業務」が局長表彰を受けた。	②企業内における研修の受講や表彰	必須		
6	宇宙地質調査(株) 技術本部	口頭発表 平成21年度 社内技術発表会		X一般共通課題1倫理倫理規程、職業倫理、技術倫理、技術者倫理(技術の人類社会に与える長期的・短期的影響の評価を含む技術士に課せられた公益性確保の責務等)	II論文等の発表・査読1(1)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、学協会、民間団体等が開催する技術発表会等での口頭発表	2018/11/10	2018/11/10	0.5時間	2.5	2.5	-	勤務先 宇宙地質調査(株)技術本部	口頭発表 平成21年度社内技術発表会 「現場密度測定とRi密度の相関関係に関する考察」について口頭発表を行った。	②企業内における研修の受講や表彰	表彰の場合は、表彰状の添付が必須		
7	公益社団法人物理探査学会 第11回国際シンポジウム	講演論文執筆(査読付き) 第11回国際シンポジウム		X一般共通課題8国際交流英語によるプレゼンテーション・コミュニケーション、海外(学会・専門誌)への論文・技術文書の発表・掲載、国際社会の理解、各国の文化及び歴史等	II論文等の発表・査読2(2)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、学協会、民間団体等が発行する学術誌、技術誌等への論文、報告文の掲載(学術雑誌への査読付技術論文)	2018/7/3	2018/9/10	10時間	20	20	-	公益社団法人物理探査学会	論文執筆(査読付き) 第11回国際シンポジウムの講演論文「Surface wave survey in Yamakoshi Village, damaged by the Chuetsu Earthquake」(査読付き)を執筆した。	①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	表彰の場合は、表彰状の添付が必須		
8	公益社団法人物理探査学会 第11回国際シンポジウム	口頭発表 第11回国際シンポジウム	8023	X一般共通課題8国際交流英語によるプレゼンテーション・コミュニケーション、海外(学会・専門誌)への論文・技術文書の発表・掲載、国際社会の理解、各国の文化及び歴史等	II論文等の発表・査読1(1)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、学協会、民間団体等が開催する技術発表会等での口頭発表	2018/10/21	2018/10/21	0.33時間	1.7	1.7	○	公益社団法人物理探査学会	口頭発表 第11回国際シンポジウムの講演論文「Surface wave survey in Yamakoshi Village, damaged by the Chuetsu Earthquake」について口頭発表を行った。	①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	表彰の場合は、表彰状の添付が必須		
9	(株)世界一地質調査	社内表彰受賞 「優秀技術者表彰 社長賞」		X一般共通課題9その他教養(科学技術史など)、一般社会との関わり等、及び上記1～5、8～10に含まれないもの	V業務の技術的な評価1業務上で技術的成果をあげ、グループ及び個人(本人)が表彰を受けた業務(公的な組織からのもの)	2018/10/7	2018/10/7	1件	10	10	-	(株)世界一地質調査	社長表彰 社内で行う優秀技術者表彰制度で、現場管理責任者として従事した業務「平成21年度渡川橋梁設計に係る地質調査業務」他が評価され、社長賞の表彰を受けた。	②企業内における研修の受講や表彰	表彰の場合は、表彰状の添付が必須		
10	自己学習	購読誌 学会誌「地球工学会誌」 vol.29.No.1-4の掲載論文		X一般共通課題9その他教養(科学技術史など)、一般社会との関わり等、及び上記1～5、8～10に含まれないもの	VIその他8その他地質技術者のCPDIに値すると判断されるもの	2017/1/1	2017/12/31	8時間	4	4	-	本人	論文購読 学会誌「地球工学会誌」vol.29.No.1-4の掲載論文を購読した。(2012年1号～2012年4月号) 1号につき2時間、年4回発行×1年分=8時間 論文:「土木構造物の維持管理における地質工学の役割」、「地圧の作用によるシールドトンネルの変状対策」、「地滑りモニタリングにおける三次元写真計測法の適用」、「AIによる長期的土砂生産量の推定」、等	③自己学習			
11	全国地質調査業協会連合会	資格取得「地質調査技士」		X一般共通課題9その他教養(科学技術史など)、一般社会との関わり等、及び上記1～5、8～10に含まれないもの	VIその他1政府機関等の認定あるいは承認する公的な技術資格の取得	2018/10/1	2018/10/1					連合会	資格取得 地質調査技士 現場技術管理部門(登録番号)				
12	日本技術士会	資格取得「技術士」		X一般共通課題9その他教養(科学技術史など)、一般社会との関わり等、及び上記1～5、8～10に含まれないもの	VIその他1政府機関等の認定あるいは承認する公的な技術資格の取得	2018/3/30	2018/3/30	10時間	10	10	-	日本技術士会	資格取得 技術士資格(総合技術監理部門 応用理学-地質工学) (登録番号)		CPD区分		
13	発注者: 埼玉県本庄京王事務所	現場管理人で従事 「地方特定道路(改築)整備工事(△橋取付道路工)地質調査業務委託」		X一般共通課題9その他教養(科学技術史など)、一般社会との関わり等、及び上記1～5、8～10に含まれないもの	V業務の技術的な評価5現場管理経験(主任技術者、現場管理人、掘削機長、物理探査班長等)	2017/12/1	2018/2/1	1業務	5	5	-	勤務先 (株)世界一地質調査	現場経験 県発注の地質調査業務「地方特定道路(改築)整備工事(△橋取付道路工)地質調査業務委託」に現場管理人として従事した。	④現場経験、資格取得	現場経験は、現場管理者や一般調査員で重み係数が異なるため、CPD区分・重み係数表を確認		
14	発注者:埼玉県本庄京王事務所 元請:(株)世界一地質調査	現場担当で従事 「地方特定道路(改築)整備工事(△橋取付道路工)地質調査業務委託」		X一般共通課題9その他教養(科学技術史など)、一般社会との関わり等、及び上記1～5、8～10に含まれないもの	V業務の技術的な評価6現場経験(一般調査員)	2017/5/1	2018/5/30	1業務	2	2	-	勤務先 (有)一つだけの花地質調査・設計事務所	現場経験 県発注の地質調査業務「地方特定道路(改築)整備工事(△橋取付道路工)地質調査業務委託」を元請企業(株)世界一地質調査より委託された地質調査業務の現場担当として従事した。	④現場経験、資格取得	現場経験は、現場管理者や一般調査員で重み係数が異なるため、CPD区分・重み係数表を確認		

※印のついた項目は入力必須項目となります。

土壌・地下水汚染分野のCPDの場合、「土壌汚染」の文言を必ず記載してください。

「⑧終了年月日」に入力された日付が、年度ごとのシートに正しく取っていない場合、「×」が表示されます。その場合は、対象となる期間のシートに記入しなおしてください。なお、正しく入力されている場合は何も表示されません。

「表彰」の場合は、必ず表彰状の写しを添付してください。

終了年月日を取得日とします。
この欄に入力した日付がCPD記録簿左上にある対象期間に収まっているか確認してください。

現場経験のCPDは、「現場管理人」と「現場担当者」との役割の違いで重み係数が異なります。
「⑮プログラム内容」欄には、記入例を参考に役割を明記し、CPD記録簿にある「参考（CPD単位一覧表）」を確認の上、CPD単位数を入力して下さい。

自動計算につき入力不可

登録番号・氏名:	地質太郎
登録部門数:	2
対象となる部門:	現場調査部門、土壌・地下水汚染部門

「第1年度」で入力した項目が自動でコピーされるためこのページでの入力は不要です。

◆CPD記録集計表（単純集計）

取得形態	合計	CPD単位				
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度	第5年度
		2017/12/1 ～ 2018/11/30	2018/12/1 ～ 2019/11/30	2019/12/1 ～ 2020/11/30	2020/12/1 ～ 2021/11/30	2021/12/1 ～ 2022/11/30
1 講習会への参加、発表など	101.9	64.3	15.0	9.0	9.6	4.0
2 企業内研修等への参加など	64.5	12.5	11.0	35.0	4.0	2.0
3 自己学習	36.0	13.5	6.0	0.0	5.5	11.0
4 現場経験	62.0	25.0	4.0	3.0	10.0	20.0
5 委員会活動など	14.0	3.0	3.0	2.0	4.0	2.0
計	278.4	118.3	39.0	49.0	33.1	39.0
うち土壌・地下水汚染部門の単位	41.6	3	11	9	4.6	14

* 1 部門のみの資格更新に必要な単位数

87.5 CPD単位；コロナ対応

* 2 部門の資格更新に必要な単位数

122.5 CPD単位；コロナ対応

必ずこの箇所を確認し、更新に必要なCPD単位数を満たしているか確認してください。

◆CPD記録再計表（取得形態による上限を考慮）

取得形態	合計	CPD単位				
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度	第5年度
		2017/12/1 ～ 2018/11/30	2018/12/1 ～ 2019/11/30	2019/12/1 ～ 2020/11/30	2020/12/1 ～ 2021/11/30	2021/12/1 ～ 2022/11/30
1 講習会への参加、発表など	101.9	64.3	15.0	9.0	9.6	4.0
2 企業内研修等への参加など	59.5	12.5	11.0	30.0	4.0	2.0
3 自己学習	36.0	13.5	6.0	0.0	5.5	11.0
4 現場経験	47.0	15.0	4.0	3.0	10.0	15.0
5 委員会活動など	14.0	3.0	3.0	2.0	4.0	2.0
総計	258.4	108.3	39.0	44.0	33.1	34.0

取得形態による上限

限度なし
30 単位/年
20 単位/年
15 単位/年
20 単位/年

コロナ対応のため15単位とする

必ずこの箇所を確認し、更新に必要なCPD単位数を満たしているか確認してください。

取得形態による上限が考慮された単位が出力されます。例の場合、「現場経験」の項目が単純計算で25単位取得していますが、再計算され上限の15単位に絞られています。

(参考)

●地質調査技士の更新に係るCPD単位一覧表

プログラム形態	教育形態	番号	内容 *	CPD 重み係数	CPD 計算	年間限度
①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	I. 講習会等の受講 講習会、研究会、講演会、シンポジウム、見学会等への参加(受講)	I 1	講習会等の受講	1	1×H H:受講時間	限度無し
	II. 論文等の発表・査読 論文・報告文などの口頭発表・掲載・査読	II 1	(1)学会・技術発表会等での口頭発表 ポスター発表での個別口頭発表は対象、半日・一日のコアタイム発表は「VI-5 自己学習他」の対象	5	5×H H:発表時間	
		II 2	(2)学術誌等への論文、報文の掲載 学術雑誌への査読付論文、30/件を上限	2	2×H H:作成時間	
		II 3	掲載 上記以外、10/件を上限	1	1×H H:作成時間	
		II 4	(3)学術誌・技術誌等の論文、報文の査読 査読は、1ページ0.25Hで最大5/件まで	1	1ページ× 0.25H	
	IV. 講習会等の講師・指導 研修会・講習会などの講師・修習技術者指導	IV 1	(1)研修会、講習会等の講師等 大学、学術団体等の研修等の講師	3	3×H H:講演時間	
		IV 2	小・中・高での理科教育、企業研修会等の講師	1	1×H H:講演時間	
		IV 3	(2)修習技術者等に対する具体的な技術指導 玉掛け、ボーリング運転等の特別講習・技能講習の講師及び、計測機器の使用説明講師など	1	1×H H:指導時間	
	V. 業務の技術的な評価 産業界における業務経験	V 1	(1)業務表彰(グループ及び個人) 公的な組織からのもの 公的な組織よりグループで表彰を受けた場合、グループの責任者は20/件を上限、担当者または照査の場合は10/件を上限	1	1×H H:該当時間	
		V 3, V 4	(2)特許出願(発明者に限る)、複数の場合は人数で按分	1	1×H H:該当時間	
VI-3 大学等における研究開発への参加	VI 3	研究開発・技術開発業務への参加 競争的資金による研究など、最大20/件	1	1×H H:参画時間/年度		
VI-4 技術図書の執筆	VI 4, VI 5	技術図書執筆及び翻訳 業務で作成した技術図書、資格受験指導に関する図書は含まない	1	1×H H:執筆時間		
②企業内における研修の受講や表彰	III. 企業内研修(受講)	III 1	研修プログラムが明示されており、それに基づいて実施され成果が明確なもの	1	1×H H:受講時間	年30単位以内
	V. 業務の技術的な評価 産業界における業務経験	V 2	(1)業務上で技術的成果をあげ、グループ及び個人(本人)が表彰を受けた業務(注1・2・3) 企業の代表者からのもの 企業の代表者より表彰を受けた場合のみ、責任者は10/件、担当者等は5/件を上限	1	1×H H:該当時間	
③自己学習	VI-5 自己学習他	VI 6, VI 7	GE0-Net加盟団体及び日本技術士会が認定するeラーニング	1	1×H H:履修時間	年20単位以内
		VI 8	その他の自己学習	0.5	0.5×H H:履修時間	
④現場経験、資格取得	V. 業務の技術的な評価 産業界における業務経験	V 5	現場管理経験(主任技術者、現場管理人、掘削機長、物理探査班長等)	5	5/業務	年15単位以内*
		V 6	現場経験(一般調査員)	2	2/業務	
		V 7	電子納品の実務経験	1	1/業務	
		V 8	地質関連情報のデータベース化に関する実務経験	2	2/業務	
VI-1 公的な技術資格の取得	VI 1	地質調査技師、技術士等の公的な技術資格の取得 ・1資格あたりの上限は10/資格 ・技術士第二次試験と同等の難易度は10/資格、それ以外(RCCM、地質調査技士等)は5/資格	1	1×H H:該当時間		
⑤委員会活動など	VI-2 公的な機関での委員会活動	VI 2	国・地方公共団体、学協会等の委員会の委員(年間を通した活動であるもの)	1	1×H H:会議時間/年度	年20単位以内

※コロナウイルスの影響による特別措置として、④現場経験CPDの年間上限を10単位以内→15単位以内とします

●CPD記録簿様式 プログラム形態・プログラム分類と特記事項の表

タブ表示	プログラム形態	プログラム分類	年間限度	特記事項
①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	① 講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	所属組織以外が主催・進出した活動に関連するCPD ・講習会等の受講または講師(講習会、シンポジウム、研究会、見学会など) ・論文の発表または査読(口頭発表、論文掲載、論文査読など) ・特許取得 ・発注者、学協会からの表彰 ・国際機関・国際協力機構等への技術協力 ・大学や研究機関等の研究、技術開発業務への参加 ・学協会等が発行する技術図書の執筆	限度なし	
②企業内における研修の受講や表彰	② 企業内における研修の受講や表彰	所属組織が主催・進出した活動に関するCPD ・企業内研修会の受講 ・社長表彰 など	年30単位以内	・表彰については表彰状等の写しが必要
③自己学習	③ 自己学習	本人の自主的な活動によるCPD ・学協会認定のeラーニング ・学協会誌の購読 ・技術を通じたNPOやボランティア活動 ・環境教育活動 ・異業種交流会 など	年20単位以内	
④現場経験、資格取得	④ 現場経験、資格取得	業務に関連するCPD ・地質調査技士、技術士、RCCM等の資格取得 ・現場経験(主任技術者、現場管理者、物理探査班長) ・現場経験(一般調査員) ・電子納品の実務経験 ・地質関連データベース化に関する実務経験	年15単位以内	・現場経験は、「主任技術者、現場管理者、物理探査班長」又は「一般調査員」で重み係数が異なるため注意
⑤委員会活動など	⑤ 委員会活動など	全地連、地区協会、県協会、学会等での委員会活動	年20単位以内	